

審判上の確認

審判委員長

- 1 本大会は、2019年度公益財団法人日本バレーボール協会9人制競技規則によって行う。
- 2 競技参加者は、公式競技規則に精通し、これを守らなければならない。
- 3 サービス順の確認時に、サービスオーダー票に記載されていない選手がいたときは、チームは記載されている選手に戻さなければならない。ただし、その選手を出場させたいときは、試合（セット）開始前であっても正規の選手交代を要求し、その選手をコートに入れることができる。
- 4 選手交代の要求とは、コートに入る準備のできた交代選手が、選手交代ゾーンに入ることをいう。この場合、それぞれのセット開始前の選手交代、およびコート内の選手の負傷等による選手交代を除いて、監督は選手交代のハンドシグナルを示す必要はない。同じ中断の間に2組以上の選手交代をするときは、同一の要求とみなせるように、すべての交代選手が同時に選手交代ゾーンへ出向かなければならない。
- 5 選手交代は1セットにつき6回まで要求することができる。ただし、同じ中断中に連続して要求することはできない。先発選手は、1セットにつき1回だけ交代してコートを離れることができる。また1セットにつき1回だけ自らの交代選手と交代してコートに戻ることができる。
- 6 ネットプレーを予測して、ネットに接近し、身体を前に出したり、手および腕を前に出して、相手のネットプレーを妨害した場合は、反則となる。
- 7 ボールの全体または一部が、許容空間外側のネット垂直面を越えて、相手側のフリーゾーンに行った場合、チームに許された接触回数のなかで、ボールを取り戻すことができる。
- 8 インプレー中、選手がネットおよびアンテナに触れたときは、タッチネットの反則とする。ただし、アンテナの外側のネット、およびボールをプレーする一連の動作中でないときに触れても相手チームの選手のプレーを妨害しない限り反則としない。
- 9 試合中、監督は自コートベンチ前フリーゾーンで立ち上がったたり、歩いたりして指示を与えても良いが、ラリー中は着席すること。その位置は記録席に最も近いベンチとする。監督制限ラインが設けられている場合はこの限りではない。